

只今、ご紹介に与りました金成でございます。

実行委員会を代表いたしまして、皆さまに一言、御礼とご挨拶を申し上げます。

ご来賓の皆さまにおかれましては、ご多用の中、本日の式典にご臨席賜り、心より御礼申し上げます。

また、同窓生の一人として、きょうのこの日、皆さんと共に母校の長き歴史を振り返り寿げることは、誠に幸せなことと感謝いたしております。



母校の創立は大正 12(1923)年 7 月で、その二ヶ月後の 9 月 1 日、あの関東大震災がありました。爾来、母校は戦争、学園紛争などの困難な時期を、教職員、在校生、保護者、そして地域の方々のご努力と情熱で切り抜けてきました。この間、「素朴で健全な校風」、「自由と規律ある校風」は、紆余曲折しながらもいつしか母校の伝統となり、今日に受けつがれています。ここに、90 年という伝統の重みがあります。

私たちの高校では卒業後のクラス会や同期会が盛んですが、それはおそらく、今述べましたような校風の中で、15 歳から 18 歳という世俗的な利害関係から無縁で多情多感な青春時代を、思いきり燃焼できたからではないかと思えます。そして、都立高校になってから母校を巣立った卒業生は、今や 2 万人を優に超え、日本国内のみならず世界各地で様々な分野で活躍されています。

ところで、今日の日本は、低迷する世界経済、厳しい国際関係、深刻化する地球環境・資源問題、更には国内における社会の不安定化など、困難な諸問題に直面しています。このような状況の中、教職員、在校生、保護者の方々が、より良い学校生活を築き上げるべく様々なご努力をされていることに、敬意を表します。

困難な時代であればあるほど、「歴史に学べ」という格言に思い至ります。

90 周年という歴史の節目を迎え、実行委員会は本日、「100 周年に向け新たな飛躍を！」をテーマに、この「創立 90 周年記念誌」を発行しました。記念誌には、在校生、同窓生、そして PTA 会長による「記念座談会」の記事があります。また、この 10 年の主なピックについての特集が組まれています。「足立高校のあゆみ」では、半世紀以上前の 1952 年から 2012 年までに、卒業、又は在籍されていた同窓生と先生方の寄稿文が数多く掲載されています。

記念誌を一読しますと、その時代、時代の楽しい学校生活や先生・生徒の様々な思い、「自由」と「規律」の間で煩悶する姿などが、生きいきと伝わってきます。

母校の歴史の書としてのこの記念誌が、既刊の 70、80 周年記念誌と共に、次の 100 周年に向けた我が母校の飛躍に些かなりとも役に立つことを願ってやみません。

私達はもう、100 周年へ歩み始めています。私達の足立高校が、在校生、保護者、教職員、同窓生、そして地域の方々にとって、今まで以上に「誇れる高校」、そして先に紹介しました座談会で、在校生がいきみじくも言われた、「中学生が憧れるかつこよい高校」になれるよう、共に手を携えて努力していきたいと思います。

最後になりましたが、創立 90 周年記念行事の様々な面でご協力賜りました多くの方々に、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。